

# 数理同窓会報

No.6 (2010年8月1日)

九州大学大学院数理学府同窓会

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>





(九州大学名誉教授 富田 稔 先生)  
3分室統合記念講演会、2009年11月4日

### 三分室統合を祝す

数理の六本松、工学部、理学部の三分室が伊都キャンパスで独立した建物である数理棟に統合移転を果たしました。その記念事業が数理学府同窓会の後援のもとで2009年11月4日に行われました。数理学府同窓会会員の有川節夫九州大学総長、富田稔名誉教授等も参加され稲盛会館で講演会、祝賀会など盛大に記念式典が行われました。富田稔名誉教授が講演の中で「自分は常にぶっつけ本番で講義してきた」と話され、私は院生だったと思いますがそのぶっつけ本番の講義を聴いたことが懐かしく思い出されました。授業評価などはまだ無い良き時代でした。

現在伊都では数理棟で学部から大学院までの一貫教育が行われています。

私は約二年前に九州大学を退職し、現在非常勤として出かけている大学で、九大OBの方とも話す機会があるのですが、九大のやってきた一連の改革の中で数理学研究院が出来たことが九大の改革で唯一の成功例ではないですかとおっしゃる方もおられます。実は私も内心そう思ってきました。

政権交代後の前原国交大臣も福岡空港強化の方針をはっきり表明されているようですし、新たな滑走路も出来て箱崎キャンパスの騒音を巡る環境は悪くなっていく気がします。

今回三分室が統合し伊都で数理が新たなスタートラインにたたれたこと、歴史は正しい選択であったことを示してくれると思います。これは九州大学にとって近年にない明るい話題だと思います。

同窓会を代表し数理の三分室移転統合を実現されたことにお礼を申し上げますとともに、数理の今後の更なる発展を切に祈りたいと思います。

平成22年7月

数理学府同窓会会長  
九州大学名誉教授 風間英明

## 石川暢洋先生のご逝去を悼む

九州大学名誉教授 鎌田正良

こんな悲しいお知らせをこの会報に書かなければならなくなると思ってもよらないことでした。昨年の9月27日石川先生の訃報のお電話をいただいた時、私はとても信じられませんでした。突然襲った病魔との厳しい闘いに潰えた無念を思うと哀惜の念に耐えられません。昨年の2月、石川先生と久しぶりに楽しい杯をかわして、10月にまたお会いする機会があることをお互いに確認したばかりのことでしたから、現在に至ってもやりきれない空虚感に襲われます。同窓会の皆様にお会いすると、必ずどなたかが石川先生はお元気ですかとお尋ねくださいます。そして、数学科新入生を中心とする九重の合宿セミナーを懐かしそうに振り返り、このセミナー企画に対する石川先生の誠実な御指導を思い出される方がたくさんいらっしゃいます。

石川先生は、長野の松本のご出身で昭和32年名門深志高等学校をご卒業、南部忠平等の名選手を輩出した陸上競技部で活躍するスポーツマンでした。その後、信州大学から大阪市立大学大学院へ進まれトポロジーを専攻、当時発足した新人トポロジーセミナーや若手トポロジーセミナーでは、いつもその企画のサポートをなさってくださいました。今も、新人セミナーは引き継がれ毎年行われているようです。御自身は、一般コホモロジーの課題を中心に研究を進めてこられ、球面写像を係数とする一般コホモロジーの研究等で優れた成果をあげられました。

九州大学には昭和40年に赴任されました。六本松の教養部に着かれたのは、昭和45年のことです。教養部における石川先生の基礎教育に懸ける情熱は並外れたものであったと思います。平成7年から平成10年の間には日本数学会大学数学基礎教育ワーキンググループ教育体制研究班代表として、基礎教育としての数学教育のあり方に関する研究に貢献されました。また、早くから学生と教官の交流を図る課外活動の教育における重要性を高い見地にたって認識され、石川先生が企画した学生と教官による課外活動としての「研修」は、理学部数学科において新入生合宿セミナーとして現在に至るまで引き継がれ実施されていることと思います。

また、石川先生は、ボーイスカウトに所属しておられました。九重の合宿セミナーでは山登りが企画されることがよくありましたが、石川先生が颯爽としてボーイスカウトの制服



を着こなしておられたことを思い出します。九州大学をご退職後、石川先生は日本ボーイスカウト福岡連盟の理事長として活躍されました。多くの少年たち、そのご父兄、さらにボーイスカウトに携わる方々の石川先生に対する信頼と期待からあふれる惜別の情と、ボーイスカウトの話をされているときの石川先生の輝く瞳が交錯して、一層の悲しみがよみがえってきます。

親愛の情に満ちた真摯な教育姿勢で人々に深い感銘を与え、分野を越えて多くの優れた人材の育成に大きな貢献を果たしてこられた石川先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 雲雀、鶯、猪、兎、雉、蛭 —

### — 自然に囲まれた伊都キャンパス

庶務幹事:川崎英文



正面が数理棟、左が伊都図書館

工学府、全学教育(六本松)に続き、数理学府は平成21年9月に福岡市西区元岡の伊都キャンパスに移転しました。ここではキャンパスと周辺の自然を紹介し、伊都への道案内としたいと思います。

まず、天神から伊都へは2つのルートがあります。

- ① 地下鉄:前原・唐津方面行き(九大学研都市駅、25分)+昭和バス(15分)、
- ② 西鉄バス(天神2B ソラリアステージ、45分)

終点の工学部前から徒歩6分で数理棟です。以前は昭和バスの便数が少なく不便でしたが、今は、1時間目の通学時間帯と土日を除いて、待ち時間は解消されました。



麦畑からの伊都キャンパス遠景

さて、健脚の方はJR周船寺駅や波多江駅からキャンパスまで歩いてみては如何でしょうか。周船寺駅

から国道沿いに前原方面に進み、住宅街を抜け、麦畑の農道を雲雀のさえずりを聞きながらの1時間のウォーキングです。懐かしい田舎の香りも漂ってきます。途中、欄干に蛭があしらわれた若宮橋があります。下を流れる瑞梅寺川は井原山を源流とし、蛭で有名です。夏には若宮橋の辺りで蛭を見ることができるのではないかと、初夏の到来を心待ちにしています。また、波多江駅からのルートは、九大の建物を正面に見ながら歩くことができます。左手には糸島富士とよばれる可也山が見えます。標高365mと低い山ですが、このルートからだと優美な姿をしています。



若宮橋の蛭の欄干

さて、伊都キャンパスは竹林や雑木林の丘陵地帯にあります。そのため、今でも猪、兎、雉がたまに出没します。キャンパス南斜面の林道に「狩猟禁止」や「有害鳥獣駆除(猪)」の看板が立っているところを見ると、その数は少なくないようです。数理棟の裏山には鶯が生息していて、この季節は研究室に居ながらにして風流を味わうことができます。箱崎で毎日聞いていた飛行機の騒音、あれはいったい何だったのだろうかと思わずにはられません。

(1978年修士入学)

## 九大数理に赴任して

数理学研究院准教授 高田 敏恵

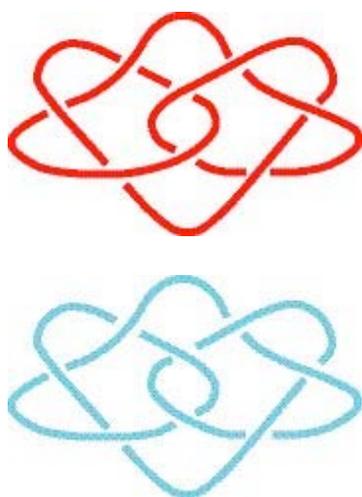
私の最初の就職先は九州大学で、箱崎キャンパスに研究室がありました。その後新潟大学に9年勤務し、2010年4月1日付けで、数理学研究院に異動しました。数理学研究院が伊都キャンパスに移転し、キャン

パス環境も大きく変わりましたが、教員のメンバーも大きく変わり、まだまだお会いしていない方が多い状態です。また、九州大学学生時代に講義をしていただいた先生方の多くが、退官されていました。

箱崎キャンパスでは、理学部3号館5階に研究室がありました。5階は半分が数学科、半分が生物学科で、実験用に飼育されていたカブトガニが逃げ出して廊下を歩いていたりしました。それも懐かしい思い出ですが、六本松キャンパスでのセミナーへの参加など数理の分散のため、不便なことがありました。伊都キャンパスでは、数学関係者がすべて集まり、セミナー参加も容易になりました。

福岡にきて、2ヶ月になりますが、福岡は、野菜、果物、魚など食べ物がとてもおいしく、その上安く、本当に、住みやすい場所だと改めて感じています。

新潟大学の周辺には、3つ蔵元があり、新潟では、おいしいお酒を堪能しましたが、伊都キャンパス近くに、キャンパス内でもおいしいビールを販売している蔵元があると聞きました。是非、行ってみたいと思っています。しかし、キャンパスでの生活では、まだ不自由な面が多く、伊都キャンパス近くにスーパーや飲食店、キャンパス内に郵便局ができることを願っています。



同じ結び目？

私の専門は、低次元トポロジーで、結び目や3次元多様体の不変量の研究をしています。不変量というのは、二つの結び目(または3次元多様体)が同じかどうかを調べる道具の一つです。不変量の値が異なれば、二つの結び目(または3次元多様体)は、異なることがわかります。しかし、不変量の値が同じであるよう

な無限個の結び目が存在する不変量も多くあります。つまり、不変量の値が同じであっても、同じ結び目とは結論できないわけです。そこが難しいところでもあり、面白いところでもあります。

また、私の主な研究テーマである量子不変量は、トポロジーだけではなく、表現論、数論、数理物理など他分野とも深くかかわっています。九大数理にはそれらの分野の最先端の研究者がいて、恵まれた研究環境だと思えます。

これから、大学院改組などで数理の環境もまた大きく変化すると思いますが、研究環境のメリットを最大限に生かし、よりよい教育、研究に尽力して行きたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

(1990年修士入学)

## 2の立方根の話

明治学園高等学校 松田康雄

2の立方根  $\sqrt[3]{2} = 2^{1/3}$  の値は

$$2^{1/3} = 1.25992105\cdots \quad (*)$$

である。これを「ポケット電卓」で計算する方法を知ったのは教員になったばかりの頃である。それは次のような方法である。

回数	ボタンの押し方	電卓の表示
1	$2\sqrt{\sqrt{\quad}}$	1.189207
2	$\times 2 = \sqrt{\sqrt{\quad}}$	1.2418577
3	$\times 2 = \sqrt{\sqrt{\quad}}$	1.2553806
.....	.....	.....
11	$\times 2 = \sqrt{\sqrt{\quad}}$	1.2599209

(以下表示は変わらず。)

理由を示すために、2の指数に注目する。n回目のボタン操作による2の指数を  $a_n$  とおく。「 $\times 2 =$ 」で、2の指数は  $a_n + 1$  になる。そして「 $\sqrt{\sqrt{\quad}}$ 」で  $\times (1/4)$  となり、これが  $a_n + 1$  である。したがって、漸化式

$$a_1 = 1/4, \quad a_{n+1} = (1/4)(a_n + 1)$$

が成り立つ。そして

$$a_n = (1/3) - (1/12)(1/4)^{n-1}$$

から

$$a_n \rightarrow 1/3 \quad (n \rightarrow \infty)$$

となり、2の立方根(の近似値)が計算される。  
ボタン操作は繰り返しなので

$$\times 2 = \sqrt{\sqrt{\quad}}$$

と書いて、最初だけは×を押さないで、表示が安定するまで下線部のボタン操作を続けるとする。

この方法は次のように一般化できる。

### ●電卓によるN乗根の計算法●

任意の正の奇数Nに対して正の整数k, mが存在して

$$N = (2^k - 1)/m$$

が成り立つ(フェルマーの小定理より示される。)。このとき、正の実数Mに対して、ボタン操作

$$\times M^m = \sqrt{\quad} \quad (\text{k回押す})$$

によって、 $M^{1/N}$ (の近似値)が計算できる。

2の立方根は、 $(M, N, k, m) = (2, 3, 2, 1)$ の場合であった。

†

2の立方根(の近似値)を暗算でも計算できることに気がついたのはかなり経つてのことである。  
 $2^{10} = 1024 \div 10^3$  から得られる近似値  $2 \div 10^{0.3}$  に注目する。これから

$$\begin{aligned} 2^{1/3} &= (10^{0.3})^{1/3} = 10^{0.1} \\ &= 10^{1-0.3 \times 3} = 10 \div 2^3 \\ &= 10 \div 8 = 1.25 \end{aligned}$$

暗算で100分の1位の誤差ならまずまずと思いたい。

†

関数電卓等を使えば(\*)の値がすぐに出る。しかし不便さが工夫を生むこともあると思う。

(1979年修士入学, 1994年博士入学)

## 楕円曲線の有理点の計算

富士通 中尾寿康

大学で数学を学んでいた頃(1979~1985年)は、代数学や数論にはあまり興味がなかったし、これらの分野と修士課程で専攻した計算数学(証明論)には接点がなかったように思う。当時のPC(マイコン、パソコンと呼ばれていた)といえば、CPUは8bit、クロックは4MHz

程度、RAMは16~64KB、外部記憶装置は5インチFDD、プログラム言語はBASICインタプリタと、今から思えばかなり貧弱な環境だった。理想的な計算機環境に近かったUNIXワークステーションは高価であり、個人で手軽に購入できるものではなかった。

それから10年ほど過ぎた頃(1995年)には、PCも高性能化・低価格化し、CPUは32bit、RAMは128MB、クロック133MHz程度、HDD 4GB程度、OSはWindows NT 3.5 Workstationが個人でも利用できるようになった。さらに、フリーなOS NetBSD-1.0やGNUプロジェクトで配布されたフリーソフトウェアを使うことにより、大学時代のUNIXワークステーションに匹敵する計算機環境を、個人のPC上(構成次第でそれなりの価格にはなるが)でも利用できるようになった。

偶然にも書店で“楕円曲線論入門”[1]を見かけて購入し、読み始めたことがきっかけとなって、楕円曲線に興味を持った。最初に、この本で紹介されていたLenstraの楕円曲線を使った素因数分解アルゴリズムをCommon LISPによって実装してみると、実際にある円分数に関連する60桁の合成数

$(2^{211}-1)/15193=2166135137657086871789599397824459297021$   
 $96520191348629414679$

を、2つの素因数の積

$60272956433838849161*3593875704495823757388199894268773$   
 $153439$

に分解することができた。LISPを選んだのは、多倍長の整数や有理数の計算ができるプログラミング言語で、ある程度なじみがあり、無償で利用できるものに、GNU Common LISPがあったためである。後にrubyでも多倍長の整数や有理数が扱えることを知り、このプログラムをrubyに書き換えた。この頃から数論(主に楕円曲線論)の専門書を購入して読むようになった。

次に、“フェルマーの最終定理についてのノート”[2]のあるページで、楕円曲線 $x^3+y^3=382$ の有理点 $(x_1, y_1)$ の共通の分母

$8122054393485793893167719500929060093151854013194574$

だけしか記載されていなかったため、 $x_1, y_1$ の分子も知りたくなった。可能な方法から試してみると、共通の分母をヒントにして、 $x_1, y_1$ の分子

$58477534119926126376218390196344577607972745895728749,$   
 $6753262295125845463811427438340702778576158801481539$

を計算することができた。ヒントなしで、 $(x_1, y_1)$ を求めることは、この時点ではかなり困難に見えた。後に、有理数体上同型な楕円曲線

$$y^2 = x^3 - 432 \cdot 382^2$$

のHeegner点を計算することにより、直接 $(x_1, y_1)$ を求めることができた。

古典的な合同数問題や2変数3次の不定方程式の有理数解や整数解を求めることなど、楕円曲線の有理点の計算に帰着される問題にも興味を持ち、いろいろな楕円曲線の有理点をPCで計算した結果をまとめたWebページ[3]を2001年3月よりインターネット上に公開した。このページは、2008年7月に、「YAHOO!JAPANのカテゴリ:トップ > 自然科学と技術 > 数学 > 整数論」にサイト登録された。

現在も継続的に有理点を計算している楕円曲線の族は、

(1)  $y^2 = x^3 - n^2 \cdot x$  合同数 $n$ に関連する楕円曲線

(2)  $y^2 = x(x+3n)(x-n)$   $\pi/3$ -合同数 $n$ に関連する楕円曲線

(3)  $y^2 = x(x+n)(x-3n)$   $(2\pi/3)$ -合同数 $n$ に関連する楕円曲線

(4)  $y^2 = x^3 + (n^2 - 6n - 3) \cdot x^2 + 16n \cdot x$

$(X+Y+Z)(1/X+1/Y+1/Z)=n$ の有理点 $[X:Y:Z]$

(5)  $y^2 = x^3 - 432 \cdot n^2$   $X^3 + Y^3 = n$ の有理点 $(X, Y)$

(6)  $y^2 + n \cdot x \cdot y + y = x^3$   $X/Y + Y/Z + Z/X = n$ の有理点 $[X:Y:Z]$

などがある。

有理数体上定義された楕円曲線の有理点は有限生成のAbel群を成す(Mordell-Weilの定理)が、その有理点群の(自由部分群の)基底を効率的に計算することは難しい。また、楕円曲線のrankには上限がないことが予想されていて、実際にrank 28の楕円曲線が見つかっている。楕円曲線の係数は小さくても、その有理点の高さは非常に大きいことがあるので、それを具体的に求めることが面白い。楕円曲線のrankについては、Birch&Swinnerton-Dyer予想というもっともらしい予想がある。1995年にAndrew Wilesによって肯定的に解決されたFermatの最終定理の証明には、(半安定な楕円曲線に対する)志村・谷山予想などが使われている。後に、志村・谷山予想は一般の場合にも証

明された。応用面では、楕円曲線を使った素因数分解、素数証明(ECPP)、楕円曲線の有理点に関する離散対数問題を利用した公開鍵暗号(楕円曲線暗号)が実用化されている。

楕円曲線の有理点を計算する主な方法には、

(1) 2-descent法

(2) 3-descent法

(3) 4-descent法

(4) Heegner点法(rank 1の楕円曲線にしか適用できない)

などがある。実際の計算には、数論研究者John Cremonaらが作成したプログラムであるmwrank[4]またはHeegner.gp[5]を使っている。

例えば、楕円曲線

$$y^2 = x^3 + 877x$$

の有理点群の基底は2-descent法を使うと計算できて

$$(375494528127162193105504069942092792346201/62159877768$$

$$71505425463220780697238044100, -256256267988926809388776$$

$$834045513089648669153204356603464786949/490078023219787$$

$$588959802933995928925096061616470779979261000)$$

である。

最近の年賀状には、これらから適当なものを選び出して、題材として利用している。日本応用数学会「数論アルゴリズムとその応用」の研究部会(JANT)にも時々参加して、2002年(第8回)[7]と2004年(第11回)[8]にささやかな結果を発表することができた。

最近計算した例では、Heegner点法を使って、

$$X/Y + Y/Z + Z/X = -318 \text{ の有理点 } [X:Y:Z] =$$

$$[-33934093264223918580255225142689334508972697325353586$$

$$5051333187686988803433838254811325087552875305463292071$$

$$5492685873969324936905146244581315156224689345282610822$$

$$9689584557226734803062735633305281363019673628226237737$$

$$085244698413050958816817042172933950496920030392558440$$

$$6030665103725131972481384121441266803017027257955045389$$

$$1645037562763116794085590925407518740149787695135821945$$

$$3125468545630176799887364122866135604149244163682940914$$

$$65236745270515394149541275 :$$

$$1056074008737319832893882353933424893078298921699428576$$

$$5905478832290836215015892343391136187230517029316065045$$

0336628002525835322707773745547158933710104162625841034  
6360116303593845399862118189151891777805848602799497805  
4400468986915803735665807348303304651533401553453821911  
4346315871710240205121012908132073170077131408647846987  
0743406412559916553644942700194470068939698073700289807  
0395784106986432662082228313578769255398158827245613682  
2393650270184515135000 :  
3177121014744906385566768655680161371053995257638855004  
9562584510270853302664852994133068710250116218683992363  
7910086579149968537249365763369811665945429986581519556  
6376307282601508361787900046339830560530649839094380585  
3116869731852131475856624416338654403974988823605868359  
6901041921415202034134093047159128410284958159700531126  
2920533846202115565243514929234929080589927158831302996  
9051226251622750297136138447696279034269366325023732681  
074322994773106499264]

を求めることができました。

現在では、計算機の進歩により、これまで高度に専門的とされていた数論の結果が次々に応用されるようになった。近い将来には、純粋数学と応用数学の間の敷居は低くなって、融合していこう。さらに、PCを利用することにより、非専門家が数論に関する興味深い結果(Mersenne素数、円分数の素因数分解、不定方程式の有理数解や整数解など)を見つける可能性も出てきた。数論は他の分野の数学さえも利用できるものは利用するので、基本を一通り学ぶまでも時間が掛かる。こちらは非専門家であり、趣味として学んでいるだけなので、あせる必要はない。今後も、PCを使った楕円曲線の有理点の計算を続けていきたい。

#### 参考文献

- [1] Joseph H.Silverman, John Tate(著), 足立 恒雄, 木田 雅成, 小松 啓一, 田谷 久雄(訳), "楕円曲線論入門", シュプリンガー・フェアラーク東京, 1995, ISBN4-431-70683-6.  
[2] Alf van der Poorten(著), 山口 周(訳), "フェルマーの最終定理についてのノート", 森北出版, 2000, ISBN4-627-06101-3.  
[3] "楕円曲線の話のページ", <http://www.kaynet.or.jp/~kay/misc/index.html>

[4] "mwrnk", <http://www.warwick.ac.uk/~masgaj/ftp/progs/mwrnk-2008-07-20.tgz>

[5] "Pari/GP Script", <http://www.warwick.ac.uk/~masgaj/ftp/progs/pari/heegner.gp>

[6] 中尾 寿康, "(x+y+z)(1/x+1/y+1/z)=nの有理点の計算",

<http://tnt.math.se.tmu.ac.jp/jant/program08.html>

[7] 中尾 寿康, "Fibonacci数列に現れる完全19乗数と完全23乗数",

<http://tnt.math.se.tmu.ac.jp/jant/program11.html>

(1983年修士入学)

### ☆ 3分室統合記念事業

2009年11月4日(水), 九州大学伊都キャンパス数理学研究教育棟, 及び稲盛財団記念館にて, 九州大学大学院数理学研究院・数理学府 3分室統合記念事業として, 施設見学会, 記念講演会, 記念祝賀会が開催されました。

#### 記念講演会 プログラム

- 九州大学 総長 有川 節夫
- 大学院数理学研究院 研究院長 若山正人
- 久留米大学附設高等学校長 吉川敦  
「ぜひ, 新しい数学の発信を  
— 数理学府・数理学研究院への期待を窺って
- 東北大学大学院理学研究科教授 宮岡礼子  
「福岡での良き日々 — 九州大学の思い出」
- 九州大学 名誉教授 富田稔

### ○大学院数理学研究院教員の異動

(2009. 4. 1~2010. 3. 31)

#### 2009年度

- 
- |     |                       |
|-----|-----------------------|
| 転入等 | 教授・白井 朋之 (昇任)         |
|     | 教授・翁 林 (昇任)           |
|     | 教授・落合 啓之 (名古屋大学より)    |
|     | 助教・千葉 逸人 (採用)         |
|     | 助教・川上 裕 (採用)          |
|     | 准教授・PASTRO CRAIG (採用) |
|     | 教授・小磯 深幸 (奈良女子大学より)   |
- ※ マス・フォア・インダストリ教育研究拠点教授・HERBERT SPOHN (ミュンヘン工科大学より)
-

転出等 名誉教授・鈴木 昌和  
(定年・九大数理特任教授)

名誉教授・田端 正久  
(定年・早稲田大学へ)

教授・岩崎 克則 (北海道大学へ)

教授・小西 貞則 (中央大学へ)

校長・中尾 充宏 (佐世保高専)

准教授・高山 晴子 (城西大学へ)

招聘研究員・鈴木 厚

(フランス国立情報学自動研究所)

## ○同窓会会計報告

(2008. 5. 1~2009. 4. 30)

◎収入		◎支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	1,261,831	全学同窓会費	10,000
新入会費	380,000	名簿作成費	454,538
寄附	224,000	名簿発送郵便料	129,465
預金利息	883	住所調査はがき返信郵送料	10,735
		通信費	630
		幹事会	8,790
		翌年度繰越	1,252,556
合計	1,866,714	合計	1,866,714

## ○活動報告

2009年10月15日 第19回常務幹事会

2009年12月14日 第13回幹事会

2010年8月 会報No.6発行

## ○同窓会役員

(2010年8月現在)

名誉会長：金子昌信

会長：風間英明

庶務幹事：川崎英文，大津幸男

会計幹事：長藤かおり，高田敏恵

編集幹事：溝口佳寛，正代隆義

学内幹事：前園宜彦，高瀬正仁

大学院生：横山俊一

学外幹事：西原賢，杉万郁夫，安楽和夫，  
岩元隆，大黒隆，四宮光文，隈本覚，  
竹若喜恵，中坊滋一，藤井亨，  
橋本弘治

会計監査：岩瀬則夫，森雅生

## ○寄附していただいた方(順不同・敬称略)

(2009. 4. 1~2010. 3. 31)

辻久美子、菅原民生、中尾寿康、新関章三、田淵大樹、弥永学、安岡孝司、金子昌信、松永弘道、富崎松代、内藤淳、松田康雄、生田卓也、西澤輝泰、木村友紀、木村憲二、坂西文俊、山口富男、吉田守、吉田正章、柳川堯、井元清哉、野見山栄二、中尾充宏、佐藤坦、池田信行、藤原悠行、下地直人、横山美佐子、宮野悟、末吉豊、黒河知子、栄伸一郎、四宮光文、関剛、安生健一、西原賢、井上淳、大森健一、風間英明、柘植利之、橋本邦夫、国場敦夫、河原紀彦、井上浩一、井上順子、水田智也、藤野田鶴美、今井淳、大島洋一、久野洋、大見聖子、梶原壤二、阿部幸隆、大浦学、千代田祐輔、乃美正哉、福嶋伸也、中原徹、古賀孝行、渡辺文彦、佐伯修、鷲尾泰俊、岩本誠一、尾崎孝大、紀洲良彦、若山正人、宗政昭弘、舘野有美、田中靖子、安達謙三、宮城光廣、佐藤泰子、谷山泰子、根来彬、岡本育久、八木貴裕、松元敦哉、岩崎雅史、東泰寛、井上寛、原口正樹、下瀬直人、梅野翔太、福嶋航、頼啓二郎、水野政幸、田中久治、福山修平、神田潤、中川智耶、川副謙士郎、笈元太郎、山崎貴史、甲斐佑太、隅田大貴、青山鈴香、大西旭、山西浩介、水上裕貴、大平規史、濱口大輔、長江保友、菅原護、種田真士、金城千明、江藤侑実子、矢田賢司、蛭子彰仁、檜崎政宏、當眞嗣英、東裕基、高木彰彦

## ○卒業生の進路

◆修士課程 (2010年3月)

\* 進学(博士後期課程) 14名

九大数理(12名)

東工大理工学研究科数学専攻(1名)

北大理数学専攻(1名)

\* 教職 9名

県立(福岡, 宮崎, 大阪, 高知, 富山), 私立(福岡)

\* 公務員 2名

県職員、市役所職員

\* 企業 24名

ヒューマンテクノシステム、コスモス薬品、東京海上日動あんしん生命保険、コスミックビジネ

ス、ユニアデックス、IHI、日本コンピュータアソシエイツ、第一生命保険、CSK ホールディングス、日立製作所、三菱 UFJ 信託銀行、セントラルソフト、富国生命保険、NS ソリューションズ西日本、日本生命保険、株式会社フォーラムエイト、ゆうちょ銀行、野村総合研究所、日本ビジネスエンジニアリング、TIS、中国中信証券

◆博士後期課程 (2010年3月)

\* 研究職(博士後期課程) 4名

学振特別研究員、九大数理研究員、ITP、ヤンゴン大学講師

\* 公務員 1名

厚生労働省

\* 企業 10名

ブレインパッド、パナソニック、富士通九州ネットワークテクノロジーズ、労働衛生研究所、マツダ、りそな銀行、富士通研究所、とめ研究所、ジャストシステム

---

○数理同窓会ホームページについて

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>

に数理同窓会ホームページを公開中です。過去の同窓会報をPDFファイルで置いています。会報中の写真や図はカラーでご覧頂けます。会員専用のページには、パスワードによるロックをかけています。パスワードはホームページ上でも確認できますが、ユーザ名: alumni パスワード: 20050801です。予告なく変更することがありますが、ご了承願います。数理同窓会ホームページの内容充実に関してご意見等ありましたら、編集幹事まで、ご連絡下さい。

● 編集後記

○数理が伊都地区に完全移転してから早8ヶ月が経ち、新しい環境にも慣れてようやく落ち着いてきたように感じます。自然豊かな環境で毎日研究に励めることに感謝を忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。

(2010年度院生会長 博士1年 横山俊一)

○数理同窓会報は、数理学府からの情報発信だけでなく数理同窓会会員のコミュニケーション促進も目的としております。皆様からのご投稿を歓迎いたします。近況やどのような職場でどのような仕事に携わっておられるかなど、紹介記事やご活躍の様子、転勤・転職の通知など、なんでも結構ですからどしどし御寄稿頂くようお願い致します。

(編集幹事: 溝口佳寛、正代隆義)

Email: [ym@math.kyushu-u.ac.jp](mailto:ym@math.kyushu-u.ac.jp)

Email: [shoudai@inf.kyushu-u.ac.jp](mailto:shoudai@inf.kyushu-u.ac.jp)

---

数理同窓会報 NO. 6

2010年8月1日



発行:九州大学大学院数理学府同窓会  
〒819-0395 福岡市西区元岡744  
九州大学大学院数理学研究院内

↑↑ [alumni@math.kyushu-u.ac.jp](mailto:alumni@math.kyushu-u.ac.jp) (Email)

印刷・発送 : コロニー印刷